



# 『まど』

第4号  
令和3年4月発行  
総務課



☆ ようこそ 西宮市社協へ！！ ☆  
 今年度、11名の仲間が社協職員として仲間入りしました。  
 また、臨時職員として一緒に働くことになった方も数名、いらっしゃいます。  
 私たちが目指す“共生のまちづくり”に向けて、それぞれの業務をとおして、使命をもちながら一緒に活動いただけることを期待しています！

育成センター事業課 企画・人事係 上野 綾香さん・谷口 ひらりさん  
 財務・施設管理係 大塚 樹さん  
 青葉園事業課 中村 友里恵さん 宮崎 智也さん (ふれぼの) 奥田 明さん  
 総合相談支援課 障害者総合相談支援センター 植野 奈央さん  
 自立相談支援係 立川 卓さん  
 共生のまちづくり課 権利擁護係 原口 泰英さん  
 地域支援係 吉岡 琴星さん  
 総合福祉センター事業課 視覚障害者図書館 武本 圭世さん



【4/1 研修風景】

皆さん、どうぞ声を掛け合ってくださいね！



原田さん、そして  
新たに西宮市社協に入職された皆さんへ

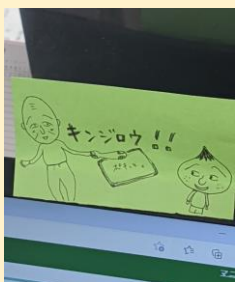


事務局長 武山 正樹

原田さん、個別支援において、自問自答を繰り返しながら、真摯に向き合っていたいただいたと思います。本当にお疲れ様でした。これからも新しいことにもどんどんチャレンジして行って下さい。また、お会いできる日を楽しみにしています。

さて、新入職員の皆さん、社協では多くの対人援助業務を担っています。各配属先のどんな部署であっても、人と関わりのない業務はありません。人の心は常に揺れ動いています。ふとした何気ない表情や言葉から発せられる心の機微を敏感に感じ取ることができるような人間として、また社協職員として成長して欲しいと願っております。

“勤次郎(きんじろう)”のご協力をお願いします！



“金太郎”“きんぞう”“銀次郎”  
そして、“かんたろう”と名前を間違った職員もいましたが、少しずつ、打刻など慣れてきましたか？  
デジタルに慣れていない職員も多いと思いますが、“働くこと”の時間管理が大切になってきますので、ご協力くださいね。

↑ 南さんのパソコンに“かわいい付箋”を見つけました！

## 令和2年度 新入職員研修、お疲れ様でした！

半年にわたって実施してきた研修は先輩職員による講話・演習、視覚障害者図書館見学、ポッチャ体験などを行い、無事に3月末に終了しました。

同期での交流やイベント実施などはできなかったけれど、青葉園事業課の小川さんによる「ふれぼのを助けて！新人さん！」のワークでは、地域との交流など、「こんなことができる、あんなことしたい」といった内容がたくさん出ました。

いつか、みんなで実現させたいですね～！

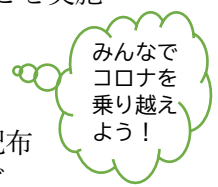


視覚障害者図書館の見学！

← ↑  
小川さんの演習・発表

### コロナ禍でふれぼの本人さんと地域がつながるアイデア

- \* オンラインカラオケ大会
- \* 「一日活動体験」(3組限定) などを実施
- \* ふれぼの前で「あいさつ運動」
- \* インスタのフレーム設置
- \* 散歩しながらお家訪問
- \* 活動紹介のパンフレット作成と配布
- \* 学生寮にコーヒーを届ける など



3月に惜しまれつつ、  
ご退職された原田さん  
より寄稿いただきました！

## ～社協の仕事を振り返って～



多くの方々に支えていただき、社協で9年間楽しく仕事をさせていただきました。  
思い出は数えきれないほどありますが、中でも個別支援をずっとやってみたいと思っていた私にとって、日常生活自立支援事業（日自）の専門員としての仕事は一番印象深く心に残っています。

利用者さんには感謝の言葉をいただき嬉しく思った一方で、何気ない一言により、この仕事の難しさや奥深さを改めて考えさせられたこともありました。

その方は、お酒の大好きな利用者さんでした。とても真面目な方で、若い頃は仕事も熱心にされ、奥さんを亡くされてから介護サービスも使わずお一人で頑張ってこられました。認知機能とADLが徐々に低下してきている状況でした。

真面目さゆえに、債務請求書が目の前に置かれている自分を許せず「これは借金だ、俺は何をしている。」などの書置きをしてまで、自分の状況に抗ってこられました。いよいよ金銭管理が難しくなり、家賃や光熱水費の滞納が問題となってきたため、包括を介して、保佐人選任までの繋ぎとして対応させていただきました。

認知機能がまだらで、意向が出にくいこともありましたが、金銭管理支援やヘルパー事業所が入ることで生活が整いつつありました。本人との相談の上、生活費の支払い以外に、お小遣いを用意し、大好きなお酒を買って飲まれていたので、私はてっきりその生活を受け入れられているものと思っていました。ところが、こちらの「おいしくお酒を飲んでいますか？」という問いに対して、「人に用意してもらった金で飲むのは旨いなあ」と寂し気な表情でお答えになりました。

この利用者さんは、難しくなりながらも今まで自分でお金を管理してこられたため、やむを得ないこととはいえ、金銭管理支援を受けなければ生活できなくなりつつあることに対して、本当は納得されていないかもしれないと、その寂し気な表情を見た時にふと感じました。

利用者さんの意向に寄り添い、信頼関係を築くことを最優先に支援していたつもりでしたが、果たして実際そのように出来ていたのかと改めて考えさせられた対応事例でした。

もっと多くの知識や経験を蓄積して、それに基づく引き出しを増やし、より柔軟な選択肢を提示しながら、利用者さんの意向に寄り添えれば良かったのではと思いました。

この方に限らず、「これで本当に良かったのか」と葛藤する日々がほとんどで、「自分はこの仕事は向いていないのではないか・・・」と挫折しそうになることもありました。

しかし、日自の仕事自体が、奥深く、やりがいのある仕事であること、また、悩んだ時に相談に乗ってくれる上司や同僚の支えがあったからこそ、ここまで続けて来られたのだと思っています。



今回、一身上の都合により退職することになりましたが、社協、そして日自の仕事に携われて本当に良かったと思っています。

心残りではありますが、社協で過ごした日々を心の糧とし、いつか福祉の仕事に戻れる日が来るのを楽しみにしつつ、これからの人生を歩んでいきたいと思っています。

末筆になりましたが、皆様の今後のご健勝とご多幸を祈念しています。

いつも素敵な笑顔で利用者さんに寄り添いながら業務に取り組んでいた原田さん、また、いつかご一緒できることを願っています。ありがとうございました！

令和3年4月

原田 姫美子